

# 松尾電気株式会社

〒729-1405 賀茂郡大和町上徳良392-2

☎08473-3-0158

## 会社概要

### 沿革

昭和46（1971）年11月、前身の日本樹脂徳良工場が創立。

昭和48（1973）年の松尾電気への改称を経て、昭和56（1981）年8月に松尾電気株式会社を設立。

昭和58（1983）年には知的障害者の雇用を開始しました。

平成3（1991）年1月に新工場が落成、現在地に移転。平成5（1993）年10月にはスタンレー電気株式会社の特例子会社となっています。

### 障害者雇用優良事業所表彰

広島県雇用開発協会会長表彰（昭和63年）

広島県知事表彰（平成4年）

労働大臣表彰（平成7年）



### 雇用状況

従業員数 33名

うち障害者数 11名

（平成13年11月現在）



生産された製品の数々

## 生産の概要

自動車のランプ（フロントランプ、テールランプなど）の組み付け作業が主業務。生産数は月9～11万個。マツダ車用が70%、三菱自動車用が30%（売上高比率）となっています。スタンレー電気株式会社広島工場への納品が100%を占めています。

## 障害者雇用に向けて

### 取り組み、工夫

平成3（1991）年に完成した写真の新工場は、以前から障害者を雇用していたことや、職場環境への配慮などもあり、工場は障害者にも作業しやすいシンプルな設計となっています。下肢障害者は現在勤務していませんが、車いすで通れるレベルのバリアフリーが確保されています。

知的障害者への作業教育は、「（手本を）実際にやって見せる」ことが基本になっています。車のランプの組み付け作業は、車のモデルチェンジにつれて内容がどんどん変わっていく、変化の早い業務です。その作業教育を知的障害者へするには時間がかかり、フォ



ローも必要ですが、「反復して教育する」「して見せる」ことで効果を上げています。

工場内は自然光がたくさん入る構造で、かつ空間的余裕があり、明るく自然な雰囲気 が保たれ、作業教育や実習を行いやすい環境が整えられています。

「障害がある人もない人も、いて当たり前、意識しない」との考えが浸透していることが、知的障害者の雇用促進につながっています。

### 福利厚生



馬にゆられ、触れ合うことで心身を癒す「乗馬セラピー（療法）」を平成7（1995）年から導入しています。これは乗馬歴26年で国体出場経験もある松尾社長の発案で、馬場の造成まで自分たちで手作りしたといういわくつきのもの。生き物に愛情をかけ、向こうもそれに応えてくれるという経験は、なにものにも代え難い体験になっています。現在サラブレッド1頭、ポニー3頭を飼育していて、障害者施設や地元小学校などへの一般開放も行っています。



自分たちで手作りした馬場と、ここでの乗馬。すべてが会社の敷地内にあります。



ポニーの「ごん太」とても従順で静かな性格です。この性格がセラピーに役立ちます。



平成6（1994）年、工場に隣接した会社の敷地内に障害者専用の社員寮が完成しました。全室冷暖房完備で、個室10室、二人部屋1室、食堂、娯楽室を備えています。公共交通手段が少ない近辺では障害者の通勤が難しく、この寮が障害者の通勤に欠かせない設備となっています。

工場に隣接した社員寮。周りは緑にかこまれ良好な環境です

## TOPICS

### 労働大臣表彰受賞

平成9（1997）年、勤続14年の小川孝さんが優秀勤労障害者労働大臣表彰を受賞しました。社員のみなさんの見守る中、小川さんに賞状が手渡されました。小川さんは現在も忙しく勤務されています。



優秀勤労障害者労働大臣表彰の賞状を受け取る小川さん



組立ラインで作業をされる小川さん。細かい作業を綿密にこなされています

## Top's Interview

近くに知的障害者授産施設などがあり、雇用の場をつくりたいとの要望があったのが直接のきっかけで、昭和58（1983）年11月より雇用を開始しています。一生懸命仕事をしている姿を見る限り、障害のあるなしなど関係ありませんね。人間にはだれにも得手不得手があって、得手の部分で働くことができれば自然にいい結果にたどり着く。ハンデを持った人だからこの仕事、というのではなく、「彼はこれが得意だからこの仕事を与える」という人材活用をすれば、日常の仕事に障害は問題になりません。



代表取締役社長  
松尾 敬二さん





### 取締役部長 部谷 繁美さん

部谷さんは乗馬施設の看板に自筆で馬の絵を描かれました。「障害のあるなしという見方はしていません。同じ仕事をしている仲間ですから。馬の看板も、皆で手作りしようという雰囲気が盛り上がって、いつのまにか私が描くことになりました。」特別絵心はないと謙遜されていましたが、お上手です！



### 統括部長 加藤 健勇さん

統括部長として、現場で忙しく動く加藤さん。今は作業教育に力を入れていらっしゃいます。「作業教育で常に心がけているのは、実際にやって見せる、ということ。最近の仕事は作業内容がどんどん変わっていきます。その流れに追いつくには、実際に手本を見せることが一番の指導だと思っています」とのこと。多品種少ロットの流れの中で、常に創意工夫に情熱を注がれています。



### 工場長 松田 紀雄さん

松田さんは、工場で働かれるみなさんの指導、製品の監督などを工場長として忙しくこなされています。「休憩中など、皆に声をかけたりすることを心がけています。コミュニケーションもとれますし、作業で緊張した気持ちをほぐすことにもなります」とのこと。お互い優しい気持ちで仕事に取り組むことが、物事をうまく回転させる秘訣のようです。